

平成 27 年度 発達障害理解推進拠点事業
成果報告書（概要版）

実施機関名（まんのう町教育委員会）

1. テーマ

保育者が「気になる子」の特性を理解し、実態に応じた支援を工夫することができるために、外部専門家による具体的な事例検討会を通してスキルアップを図る。

2. 問題意識・提案背景

平成 19 年より本格実施されるようになった特別支援教育は、10 年足らずの経過しか経ておらず、幼児教育においては、十分な取組がなされているとは言えず、まだまだ「推進」すべき状況が多くみられる。特に、幼児期は、発達が未分化であり個人差も大きいことから定型発達児と発達障害児の区別が困難であることから見過ごされてしまう状況が多くみられる。幼児期という大変重要なこの時期に「早期発見・支援」を実現することは、非常に意義のあることと考えられる。

そこで、本町では、本事業により保育者のスキルアップのために 26 年度は外部講師による講話中心の研修を行い、「発達障害」に関する認識を深めることができた。27 年度は、より専門性の高い研修の必要性から、事例による研修会を実施することとした。

また、本事業の成果を継続発展させていくために、町独自の早期支援教育センターを設立することとした。

3. 拠点校について

○ 拠点校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
まんのう町教育委員会	まんのう町立満濃南幼稚園 <small>ちようりつまんのうみなみようちえん</small>

○ 理解推進地域内の学校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
まんのう町教育委員会	まんのう町立四条幼稚園 <small>ちようりつしじょうようちえん</small>
まんのう町教育委員会	まんのう町立高篠幼稚園 <small>ちようりつたかしのようちえん</small>
まんのう町教育委員会	まんのう町立長炭幼稚園 <small>ちようりつながすみようちえん</small>
まんのう町教育委員会	まんのう町立仲南こども園 <small>ちようりつちゆうなん えん</small>

まんのう町教育委員会	まんのう町立琴南保育所 <small>ちようりつことなみほいくしよ</small>
まんのう町教育委員会	まんのう町立長炭保育所 <small>ちようりつながすみほいくしよ</small>
まんのう町教育委員会	まんのう町立満濃南保育所 <small>ちようりつまんのうみなみほいくしよ</small>

4. 拠点校における取組概要

本年度の研修体制としては、拠点園の保護者を含む町内全保護者対象の「理解啓発研修会」により保護者の気づきを深め、拠点園の全教職員を含む町内の全教職員対象の「共通理解研修会」により支援の一貫性を確保し、町全体のレベルアップによる基盤強化を図った。その上に拠点園のすべての教職員を対象に「基礎研修」として一層の気づきと支援の基本的事項のスキルアップを図り、中核的な教員対象の「専門研修」では事例を通して見取りと支援の一層のスキルアップと他の教職員へのアドバイス力の向上を目指した。また、早期支援教育センターと中核的な教員との相互ネットワークづくりも目指した。

「理解啓発研修会」と「共通理解研修会」は、それぞれ各1回実施した。

- 「基礎研修」を早期支援教育コーディネーターが分担し3回実施した。
 - 「子供の強みを見つけよう」
 - 「つながりのある連携をめざして」
 - 「儀式的行事について」コミュニケーションの視点から
- 「専門研修」を外部の専門家により2回実施した。
拠点園の「気になる子」への事例検討をもとに、各園の気になる子についても検討を重ね、より有効なかかわり方について討議した。
- 拠点園の全園児対象の研究授業（「気になる子」の友だちとのかかわり方）を2回実施した。

5. 主な成果

今回の研修に参加した教職員からのアンケート結果を要約した。

「共通理解研修」では、

- ・職員全員で研修し、知識の向上、意識統一が図れた。
 - ・発達障害の子供に対する支援の仕方、対応の仕方がよくわかった。
- などから、共通認識が図れるようになったと考えられる。

「基礎研修」では、

- ・子供の見方やかかわり方の手立ての新たな視点があつた。
- ・困ったときに相談しやすい体制ができてきた。

などから、基礎的なスキルアップと有効な連携体制が構築された。

「専門研修」では、

事例検討会において、個々の子供の実態から困難の様子を推測し、手立ての有用性について議論し、外部講師からは新たな視点の助言をたくさん得ることができた。その結果、中核的な教員のレベルアップにつながり、

連携の大切さを学ぶ機会となった。また、中核的な教員の参加率は 100% となり、中核的な教員の意識の高さがうかがわれた。

「全園活動」と「各クラスでの取組」では、

保育者は、子供が成功体験をもてるような教材や活動内容、環境設定を
考えることやその子供なりの活動への参加の仕方や目標設定を考える
ことが、重要なことであるとの認識が深まった。また、保育者が「気になる
子供」と良好な関係を築くことが、周囲の子供との良好な関係を築く
モデルとなるということにも気づかされた。

6. 今後の課題と対応

本事業の目的は、町内の保育者全員が「発達障害幼児の全般的な理解をもとに、行動特徴の把握方法を学び、個々の子供の状態に応じた支援方法を創意工夫することができ、保護者とともに共同しながら支援することができる。」ことを目指した。

具体的には、「理解啓発研修」により保護者の気づきを深め、「共通理解研修」や「基礎研修」において支援レベルの共通化を図ってきたが、まだまだ各園各自の取組には差が見られることから、今後は一層の研修の充実が望まれる。「専門研修」による中核的な教員においては、拠点園ばかりでなく地域の各園においても中核的な教員が育ち始めていることが実感された。

今後は、まんのう町早期支援教育センターを核として継続的な研修を積み重ねていき、地域の保育・教育力を高めていきたいと考えている。

また、地域の特別支援連携会議については、来年度からは各園の副園長を対象として、年 2 回の開催を計画している。ここでは、町の特別支援教育に関する連絡調整の場とし、早期支援教育コーディネーターと各園との連携を密とする場としていきたい。

7. 問い合わせ先

組織名：

- (1) 担当部署 まんのう町 教育委員会 学校教育課
- (2) 所在地 香川県仲多度郡まんのう町吉野下 430
- (3) 電話番号 0877-73-0108
- (4) FAX 番号 0877-73-0113
- (5) メールアドレス kyoiku@town.manno.lg.jp(長田)